

編集後記

Googleは学問の急速なコモディティ化をもたらしました。知の共有までの時間も、その寿命も、格段に短くなっています。その中で、速報性におとる論文という形態の意義は何でしょうか。一つは、そのソースの信頼性にあります。最近では生物系の論文も査読前にデポジットされます。当初は、数学などのように議論がネット上でも進むかと期待されましたがそうはなっていません。これは真理がある学問と、多様な解答が存在する学問との相違ではないでしょうか。本誌は、その論文を複数の査読者が熟読し評価します。まず、その熟考の時間が異なります。キュレーションされた情報源の重要性としての意味があります。一方、鮮度も重要です。臨床神経学は、この難しい問題に取り組み、2019年から査読期間を短縮しました。本年の投稿数は、昨年並みの104件。最初の査読期間は、2018年の16.4日から、2021年には9.2日になっています。査読していただいた先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

次に、大きいのは、時間を越えた議論の場を提供するという点です。急速に導入されたオンラインの疑似リアル空間化は、学問の物理的障壁を拡張しました。またAI翻訳技術は、言語の壁すら無くそうとしています。しかし、ま

だ時間を越えて議論することは出来ません。論文は、これを解決します。その議論に加わるためには、検索可能性が重要です。臨床神経学は、Google Scholarでも検索可能です。学会と、J-STAGEでオンライン公開しています。今期は597万件のアクセスがありました。一方、J-STAGEのアクセスはあまり伸びていません。J-STAGEのQRコードを示しましたので、アクセスしてみてください。ここでは、全文検索も可能です。2020年の6号から全文HTML化していますので、スクロールで読めますし、語句をすぐにネットで検索する事も出来ます。J-STAGEのページをGoogle翻訳で先方の母国語に翻訳し、中東の医師に伝えることもできます。外国のレジデントが、あなたの臨床神経の報告にたどり着いて、誰かの治療に役立てる可能性もあります。あなたの10年前の論文を読んで、コンタクトをとってくる医師もいるかもしれません。時空を超えた、知の交換の場として、是非、臨床神経学に、あなたの経験をデポジットして下さい。



(小野寺理)

〈編集委員〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第62巻 第1号	2022年1月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸田 達史
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>